



まち むら

町村遺跡の調査

町村遺跡（有家町所在）は市道南島原自転車道線整備工事に伴う調査で、令和4年度に2回に分けて実施されました。調査幅が1.5mしかない状況にもかかわらず、甕棺墓^{かめかんぼ}や土坑墓^{どこうぼ}などがたくさん確認され、町村遺跡は墓の特徴をもった遺跡であることがわかりました。特に甕棺墓は小児棺^{しょうにかん}と成人棺^{せいじんかん}が認められ、弥生時代中期（約2000年前）北部九州の影響を受けたことも判明しました。

私たちの暮らしの中で集落の近くに墓地をみることができます。町村遺跡の調査によって、周辺一帯は墓域である可能性が高くなりました。現在の集落と墓地の関係を当てはめてみれば、町村遺跡の墓域の近くに居住空間である集落が存在したことが十分に考えられます。また、墓域の規模からすると、集落には多くの人々が住んでおり、この一帯にかつて、一つのムラが存在したのではないかと考えられます。今回の町村遺跡の調査の最大の成果と言えるでしょう。